

夏季高温期の収穫作業が軽減でき、 翌春の収量が増加するアスパラガスの夏季追加立茎法

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

部門名 野菜－アスパラガス－作型・栽培型

担当者 八木田靖司

I 新技術の解説

1 要旨

アスパラガスのハウス半促成栽培では、夏季高温による品質低下や作業環境の悪化が問題となっている。本県オリジナル品種「ふくきたる」2年生から5年生を用い、春どり収穫後の立茎に加え7月中下旬に追加立茎を行う「夏季追加立茎法」(図1)を検討した結果、夏秋どり収量は減少するが、翌春以降は春どり収量が増加し、年間収量は慣行栽培と同程度となることを明らかにした。

- (1) 夏季追加立茎を行う場合は、春季立茎(12本/m)に加え、7月中下旬以降に萌芽した太さ10~12mmの茎を6本/m立茎する。
- (2) 夏秋どりの収穫本数は、夏季追加立茎法では慣行栽培と比べ3割程度減少する(表1)。
- (3) 翌年の春どり収穫期間は、慣行栽培と比べ2週間(3年生)から1か月(5年生)程度長くなる(データ省略)。
- (4) 翌年の春どり収量は慣行区と比べ増加し、夏秋どりと合わせた年間の収量は慣行栽培と同程度となる(図2)。
- (5) 年間の販売金額は、7月中旬に追加立茎を行った場合は421,867円/a、慣行栽培は406,311円/aと試算された(表2)。

2 期待される効果

- (1) 夏季に追加立茎を行うことで、夏季高温期の収穫にかかる作業時間を減らせるとともに、単価が高い春に収量を多く確保でき、慣行と同程度の販売金額が期待できる。

3 適用範囲

- (1) アスパラガスにおいてハウス半促成栽培に取り組む生産者

4 普及上の留意点

- (1) 病害虫の蔓延を防ぐため、春季に立茎した親茎は摘心及び側枝の刈り取りを実施するとともに、追加立茎後も地際から60cm程度までの側枝はとり、ほ場の風通しを良くする。
- (2) 追加立茎後は側枝が込み合うため、薬剤散布時は株全体に薬剤がかかるように注意する。
- (3) 追加立茎する際は、茎が曲がりやすいため注意する。

II 具体的データ等

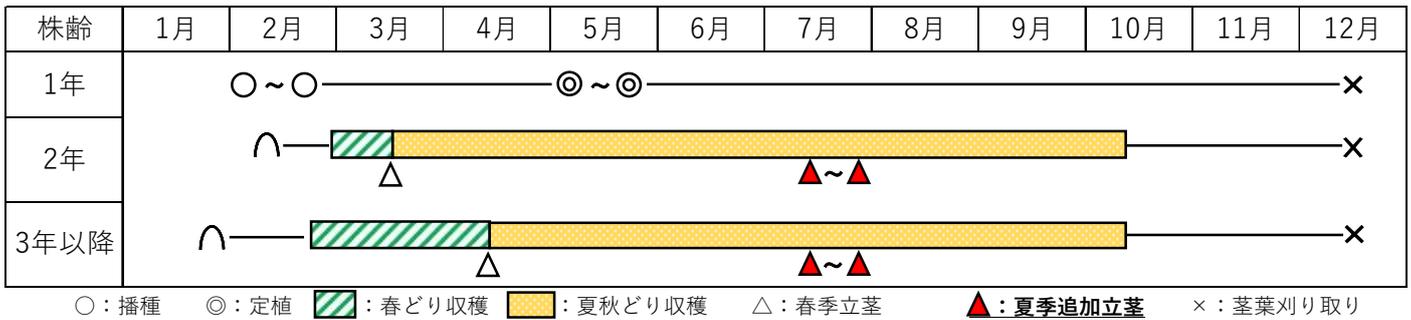


図1 夏季追加立茎法の栽培暦（郡山）

※ 春季立茎（本数12本/m）に加え、7月中旬または下旬以降に新たに萌芽した若茎のうち、10mm~12mm程度の太さの茎を1m当たり6本（株間40cmの場合株当たり3~4本）追加で順次立茎する。立茎後の茎は放任とし、摘心や側枝の刈り取りは行わない。
 ※ 春季立茎は萌芽に適した若茎が多くなってきた段階で行う。
 ※ 施肥は地域の慣行に従って行う。

表1 3年生及び4年生の総収穫本数

区	総収穫本数(本/a)					
	3年生			4年生		
	春どり	夏秋どり	計	春どり	夏秋どり	計
7月中旬追加立茎	3,331	6,845	10,176	4,648	9,562	14,210
7月下旬追加立茎	3,526	7,592	11,117	4,831	9,008	13,839
慣行	2,031	10,087	12,119	3,121	13,501	16,622

※規格外品も含む。

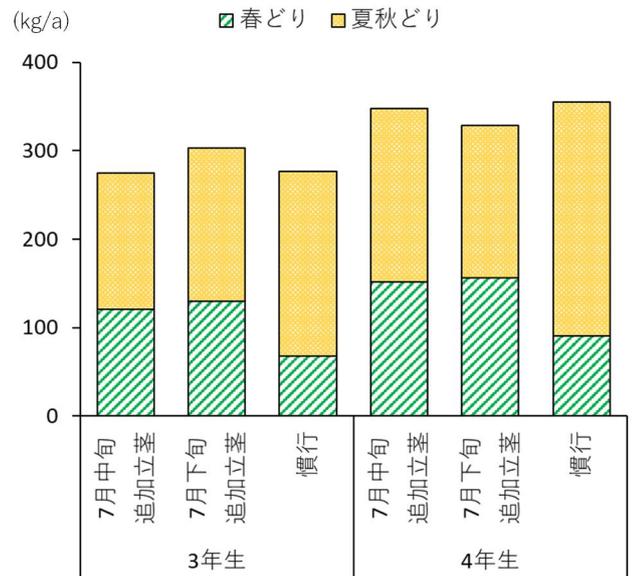


図2 3年生及び4年生の規格内収量

※「福島県青果物標準出荷規格」に基づき、規格内外を選別した。

表2 4年生の年間販売金額試算

区	販売金額試算(円/a)		
	春どり	夏秋どり	計
7月中旬追加立茎	203,150	218,717	421,867
7月下旬追加立茎	206,389	195,284	401,673
慣行	115,251	291,060	406,311

※R2~R6の全農福島月別販売実績の単価で試算した。

III その他

1 執筆者

八木田靖司

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和4~7年度
- (2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立

3 主な参考文献・資料

- (1) 「半促成長期どりアスパラガスにおける夏季追加立茎が収量、品質に及ぼす影響」(長崎農林技セ研報 第5号:21~29(2014))